

■稲村三伯(海上随鳴) 蘭学史上の金字塔となる「波留麻和解」を完成させるも、事件に連座、転変後、京都蘭学の祖に。

いなむらさんばく

宝暦事件・1758＝ 鳥取川端の町医者(眼科)松井如水の次男に生まれる。

大岡忠光没・1760＝ 2歳：

意次側用人・1767＝ 9歳：

医官稲村三杏の弟子となり、

・・・・・・1770＝12歳：その養嗣子となる。

御蔭参流行・1771＝13歳：藩校(尚徳館)に入学、

田沼意次老中1772＝14歳：

雨月物語刊・1776＝18歳：養父の勧めで、博多の亀井南溟の(医学館)に留学、

徂徠派の実証的学問の基礎的トレーニングを受けるうち、

・・・・・・1781＝23歳：養父が死去したため、鳥取に戻り、

天明大飢饉始1782＝24歳：家督を相続すると、

蘭学階梯・1783＝25歳：暇乞いして京に医学修業に出るが、藩主が死去して、中断、

蝦夷初調査・1785＝27歳：再び、京に上るも、神経痛となり、

田沼意次失脚1786＝28歳：帰藩して、温泉療養する身となる。

この間、「蘭学階梯」を読む機会を得、回復すると、

混浴禁止・1791＝33歳：江戸遊学を願い出て、

フクスマ来日・1792＝34歳：*大槻玄沢に入門。以後、ハルマ氏編集オランダ語辞典の訳編に取組み、

松平定信引退1793＝35歳：

オランダ正月・1794＝36歳：師玄沢宅での“オランダ正月”に出席し漢詩を示す。

プロト来航・1796＝38歳：_精神と肉体を極限まで駆使し、金銭面でも自ら調達しなければならない状況のなか、

_八万余語の蘭和对訳辞典「波留麻和解」を完成させ、蘭学史上の金字塔となる。十分活用されるに至らなかったが、自らはこれを縦横に駆使して医書の傑作「八譜」を書上げ、

古事記伝・1798＝40歳：この年早世した藩主池田治道の遺児の面倒をよくみたとして夫人から加増を受け、_この年の「蘭学者相撲見立番付」で東関脇にランクされるほどの実力を示すも、

膝栗毛始・1802＝44歳：*国元の兄が某藩の勘定方において賈札を発行したことに連座し、母を連れて脱藩・逃亡、下総国海上郡登戸村に隠棲し、海上随鳴と改名、その廻船業者金七の世話で医を開業、

アメリカ船来航始1803＝45歳：

さらに転々とした後、千葉郡稲毛村に落ち着き、弟子もとり始め、

バナー報復・1806＝48歳：そこの百姓の娘と結婚すると、母と妻を連れて*上京し、開塾。この年、一番弟子藤林普山が入門、

以後、_続々と入門してくる弟子を養成して、京都蘭学の祖となったが、

ゴロブニ拿捕 1811＝53歳：病気になり、_没した。